

令和5年度第5回滋賀県総合教育会議の結果について

日 時：令和6年1月15日(月)10:00～11:45

場 所：県庁東館7階大会議室

出席者：三日月知事、大杉副知事、福永教育長、土井委員、野村委員、石井委員、塚本委員

(ゲスト) 滋賀県立伊香高等学校 大森 文子 校長

滋賀県立伊香高等学校 中山 郁英 コーディネーター

滋賀県立彦根東高等学校 伊吹 直樹 校長

滋賀県立大学 小泉 尚嗣 副学長

滋賀県立湖南農業高等学校 清水 順二 校長

滋賀県立湖南農業高等学校 有村 和樹 教諭

滋賀県立湖南農業高等学校 花緑科3年 長谷川 雄飛 さん

ワシダ農園 鷺田 新介 代表

議 題：県立高等学校の魅力化に向けた、地域・企業・大学と連携した学びについて

⇒普通科の特色化に向けた学科改編の検討をはじめとした魅力化の取組状況を踏まえ、地域・企業・大学等と連携した県立高等学校の学びの充実や魅力化の方向性について協議を行った。



会議概要および主な意見

1. 事務局説明の概要

令和5年3月に策定した「滋賀の県立高等学校魅力化プラン」に基づいた、各校における魅力化の取組について説明。

2. 地域連携重点に係るゲスト発表の要旨

(ゲスト：伊香高等学校 大森校長、 中山コーディネーター)

- ・文部科学省の普通科改革支援事業の一環として配置されるコーディネーターの役割、取組内容について報告。

<今後に向けて>

- ・教職員の異動も考慮し、持続可能な活動にする必要がある。
- ・さらに良い活動にするため、地域の方をはじめ、様々な人が学校に携わる機会が増えると良い。

○主な意見

- ①取組が継続して行われることの大切さを感じた。属人化しないようにする必要がある。(委員)
- ②コーディネーターとして、様々な組織を繋ぐことに時間がかかり、苦勞されているとのことであるが、経済界や産業界などの各界においても、このような取組に興味を持ち、積極的に前向きなアクションをしていただきたい。(委員)

3. 高大連携重点に係るゲスト発表の要旨

(ゲスト：彦根東高等学校 伊吹校長、 滋賀県立大学 小泉副学長)

- ・WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）事業の一つである先取り履修の実施状況について報告。

<実施状況>

- ・令和3～5年度はWWL拠点校と連携校の生徒が取組単位認定を受けている。
- ・受講に際して、高校の授業や部活動などの教育活動との時間のやりくりをしている。

<課題>

- ・現在、先取り履修は滋賀県立大学のみで少数の受講者となっているため、他大学の受講案内、効果的なICT活用等、工夫する必要がある。

○主な意見

- ①高校の授業に加えて、大学生が対象の授業を受講するという点で、ハードルが高いと思うが、どのようなことを期待して実施するのか、また、どのような生徒を対象にするのかという点が重要であると感じた。(委員)

4. 産業教育重点に係るゲスト発表の要旨

(ゲスト：湖南農業高等学校 清水校長、 有村教諭、 長谷川さん、
ワシダ農園 鷲田代表)

- ・デュアルシステム（派遣実習）の取組内容について報告。

<デュアルシステムを体験した生徒の感想>

- ・8か月間の派遣実習を通して、達成感を感じるとともに、自分自身の課題も見つか

った。この経験を将来に活かしていきたい。

＜受け入れ企業としての所感＞

- ・学校においても実習の受け入れ先について苦勞されているようだが、企業としても学校と共に子どもたちを育てていきたいと思っているため、このような取組を更に広く周知していただきたい。

○主な意見

- ①デュアルシステム（派遣実習）を通して、高校生が様々な学びや体験をしていることが分かった。更に色々な分野の企業とタイアップしていけると良い。（委員）

5. 全体を通しての主な意見

- ①連携先の企業等から、活動が表面的になってしまうことや、子どもの興味・関心に合っているかなど、質について悩まれているというお声をいただく。学習指導要領が「社会に開かれた教育課程」を標榜している割には、まだまだ社会に広がっていないということを、行政として重く受け止め、しっかり取り組んでいかないとけない。（副知事）
- ②生徒のニーズは様々であるため、属人的な繋がりや一部の企業等の協力だけでなく、県の教育委員会はもちろん、市町教育委員会とも連携しながら、より広く協力していただける体制づくりに取り組んでまいりたい。（知事）
- ③高校生がチャレンジする機会と場所は大切である。今後、一つの事業を定着させていくためには、教職員も含め、一定期間その取組に携わる人が必要である。（教育長）

【添付資料】

＜第5回総合教育会議当日資料＞

- ・資料 1-1 事務局説明資料
- ・資料 1-2（ゲスト発表資料）高校の地域連携とコーディネーターの役割
- ・資料 1-3（ゲスト発表資料）高大連携＜先取り履修＞の取組状況 WWL 事業に係る滋賀県立大学での特別聴講
- ・資料 1-4（ゲスト発表資料）滋賀県立大学の高大連携事業
- ・資料 1-5（ゲスト発表資料）滋賀県立湖南農業高等学校 デュアルシステム（派遣実習）について

令和5年度 第5回総合教育会議 説明資料

滋賀の県立高等学校魅力化プラン概要

魅力化の方向性の観点

地域連携重点

・地域や社会の将来を担う人材の育成を視野に入れ、地域を教育資源とした体験的な学びや、地域社会が有する課題や魅力に着目した実践的な学びに重点的に取り組む。

- ☆ 地域や社会の将来を担う人材育成も視野に入れ、地域の課題解決に向けた学習をする高校
- ☆ フィールドワークを通し、地域の魅力や課題を学習する学校設定科目のある高校
- ☆ 工業や商業、農業、家庭等の専門学科の視点で地域活性を考える高校
- ☆ スポーツや観光等のレジャーの視点で地域活性を考える高校

多様な学び重点

・各校の実情に応じた少人数学級の工夫や、学び直し、日本語学習などのニーズに応える教育活動の展開、学校独自の特徴的な学びの提供など、生徒の様々な学習ニーズに対応した多様な学びに重点的に取り組む。

- ☆ スポーツや芸術等、生徒の興味・関心や進路希望に応じた多くの選択科目がある高校
- ☆ 外部人材を活用し、幅広い視点を育てる高校
- ☆ 地元企業でのインターンシップを取り入れた高校
- ☆ 時間割の工夫などにより基本の定着に重点を置いた授業をする高校
- ☆ 個々の生徒に応じた少人数の習熟度別授業を取り入れた高校
- ☆ 総合単位制普通科高校や通信制高校
- ☆ ICTを活用したオンライン授業、他校と連携した遠隔授業
- ☆ ソーシャルスキル・コミュニケーションスキル習得に係る支援を行う高校
- ☆ 生徒と保護者の生活状況などに配慮しながら日本語支援に取り組む高校

オンリーワンの魅力ある高校
「夢・想い」をかなえる場所は
ここにある

高大連携重点

・生徒の能力・意欲に応じた教育の実現を目指して、高校生が県内外の大学、企業、研究機関等の教育研究に触れることができる取組を展開するなど、高大連携に重点的に取り組む。

- ☆ 大学や研究機関、海外の高校等と連携・協働して興味ある学問分野の研究ができる高校
- ☆ 文部科学省の事業や県事業の指定を受けて他校にない特色ある学びができる高校
- ☆ 理科や数学の高度な学びができる高校
- ☆ 文系・理系にとらわれず幅広く学べる高校（STEAM教育の取組）
- ☆ データサイエンスや環境エネルギーの基礎が学べる高校
- ☆ 琵琶湖を中心とした自然環境や生態系について学べる高校
- ☆ 教育に関する探究学習に取り組める高校

産業教育重点

・職業観や勤労観の育成、産業技術の習得、経済的自立の促進を目的に、農業、工業、商業等に関する実践的、体験的な学習活動を展開する産業教育の推進に重点的に取り組む。

- ☆ 職業上の専門性の基礎を学べる高校
- ☆ 企業と連携しビジネスモデルを開発する学びができる高校（起業家教育）
- ☆ 企業が持つ産業技術や大学等の知識・設備等を生かした学びができる高校

生活・スポーツ・芸術系重点

・家庭や保育、福祉などに関する体験的な学習活動により、家庭生活の充実向上を図る能力を育成し、また、レベルの高いスポーツ・芸術活動により、生徒の能力を最大限に引き出す教育の展開を行うなど、県内の拠点となる生活・スポーツ・芸術活動に重点的に取り組む。

- ☆ 体育や音楽等の学科やコースを設置して専門的に学ぶ高校
- ☆ 魅力ある部活動のある高校
- ☆ 保育や福祉の学びができる高校

◆他校との連携による活力の創出

※「☆」は各重点における魅力化の方向性の参考例

全ての県立高等学校の特色ある学び・魅力の発信

魅力化プランに基づいた魅力と特色ある取組

地域連携重点

■伊香高校【地域連携コーディネーターによる魅力化の取組】

☆令和4年度より地域連携コーディネーターを配置し、地域を教育資源とした学びの研究を進めている。

■安曇川高校【「防災カフェ」の取組】

☆3年生のロボティクス系列の課題研究で制作したロケットストーブを地域住民の方と一緒に仕上げ（組み立て）を行い、その完成したロケットストーブを使って、防災食の炊き出し体験を行った。その後、他系列の生徒も交えて非常食を試食し、防災に関するゲームを行った。生徒と地域住民との交流と、生徒自身のコミュニケーション能力の向上に繋がる取組となった。



ロケットストーブを使って防災食の炊き出し体験をしている様子



地域の方々と交流している様子

■水口高校【近隣小学校での授業サポートの取組】

☆体育コースの3年生は年間10回、国際文化コースの3年生は年間3回、近隣の甲賀市立綾野小学校を訪問し、授業の補助や支援を行っている。生徒たちは、小学生の学びの支援をすることで、他者への援助が自らの学びにつながっていることを実感している。



■日野高校【アントレプレナーシップ教育の取組】

☆キャリア教育の1つとして、アントレプレナーシップ教育に取り組み、駅舎の一角で「日野高カフェ」を営業している。地元企業と連携して商品開発をするなど、販売活動を通して新しい価値の創造に挑戦している。



魅力化プランに基づいた魅力と特色ある取組

高大連携重点

■虎姫高校【サマーセミナーの取組】

☆2年生全員が夏休みに県内外の大学等を訪れ、学問の最先端に触れるとともに、探究的な活動をすることで、学問への興味関心や知見が広がり、自らの進路に対する意識も向上した。



県立大学（化学）
プラスチック製品の特徴と性質～リサイクルを阻むものは何か？



金沢大学
その決め方、ホントにいいの？～多数決について考える
岐阜県立関高校とのジョイントワークショップを開講

■玉川高校【立命館大学理工学部との連携】

☆「高大連携」に関する協定を締結し、高大連携協定校プログラム（大学による講座、ガイダンス等）を受けている。
このプログラムを受講完了した生徒は、高大連携特別推薦入学試験を受験し、理工学部への進学を実現している。この制度によって進学した生徒は、大学入学後も意欲的に学習に励んでいる。

■彦根東高校

【次代を担う変革型グローバル・リーダー育成プログラム】

☆WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業のカリキュラム開発拠点校の指定を受け、令和5年3月に彦根東サイエンス国際フォーラムを開催した。持続可能な社会づくりをテーマに、インド、インドネシア、オーストラリアの連携校の代表生徒と、グローバルな視点で意見を出し合い学びを深める機会となった。



魅力化プランに基づいた魅力と特色ある取組

産業教育重点

■甲南・信楽高校【地域と連携した産業教育】

☆地産地消で地域を元気にしたいという思いから、地域の人々と連携して田んぼアートに挑戦した。令和4年度は、地元のSA・PAや道の駅で、甲南高校で飼育した若鶏・地域の土山茶・信楽高校の陶器皿を用いた「お茶カツ」や、甲南高校が商品化した土山のほうじ茶を使ったクッキーとパウンドケーキを販売した。



■瀬田工業高校【国スポ・障スポへの協力】

☆大津市政策調整部から依頼を受け、各科1つずつ合計3つのカウントダウンボードの製作を行っている。レーザー加工機や3Dプリンターなど工業科ならではの機器を使用し製作した。次年度、駅等の人通りの多いところに設置する予定。

機械科の生徒が製作した
カウントダウンボード



■大津商業高校【事業所と共同した商品開発】

☆大津商業高校では、地元事業所と連携し、製菓、木工、織・刺繍の中から商品化を目指す取組を実施した。生徒たちは、オリジナルクッキーや巾着、積み木を共同で開発し、イベント販売を行った。

商品開発を通して、事業計画書の作成、コミュニケーション能力、プレゼン能力などを学んだ。



■彦根工業高校【産官学が連携した技術「人財」育成システム】

☆マイスター・ハイスクール事業の取組の一つとして、企業と連携した現地実習（デュアルシステム実習）で年間約20回にわたり製造・工程管理の研修など多岐に渡る実習を実施している。



魅力化プランに基づいた魅力と特色ある取組

多様な学び重点

■伊香・伊吹高校【ICTを活用した遠隔授業】

☆両校の生徒が混合で課題研究班を作り、オンラインで地域課題について議論し、解決策を発表した。生徒たちは、他校の生徒たちとの交流に少し緊張しながらも堂々とプレゼンし「場所が離れていても共に活動ができた」「うまくコミュニケーションがとれた」などの感想を寄せていた。



■八幡高校【県内唯一の看護の学び】

☆看護・医療・福祉の意義について学び、生き方や健康、命の尊厳等について考えることができる人材の育成を目指す。看護師をはじめとする各専門職の方による講義、バイタルサインの測定等の基礎看護実習、病院や介護施設等の見学、聖泉大学や藍野大学等との連携による実習等に取り組んでいる。



大学での看護実習の様子

■愛知高校【通級指導】

☆クラスの仲間とのコミュニケーションなど、対人関係に困難を示す人を対象に、週に1時間、放課後の7限目に実施している。

■信楽高校・大津清陵高校

【外国にルーツのある生徒や日本語指導を必要とする生徒に対する取組】

☆信楽高校と大津清陵高校（定）では、「日本語」の学校設定科目を設置している。また、大津清陵高校（定）では、京都外国語大学学生やJICA海外協力隊OB OG等を講師として、日本語の到達度別にマンツーマンに近い形で日本語指導を実施している。

生活・スポーツ・芸術系重点

■石山高校【びわ湖ホールでの音楽イベント】

☆小中学生等に音楽の楽しさや魅力を直接伝え体験してもらうことで、音楽の価値創造や将来のキャリアを考える機会の創出を図っている。

日時：R5.10/19（木）

場所：滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

内容：・音楽科の合唱・合奏

・晴嵐小学校6年生と合同演奏

・吹奏楽部合奏

・びわ湖ホール声楽アンサンブルによる合唱

・石山高校生や卒業生によるヴァイオリン独奏



■草津東高校【専門的なスポーツ教育】

☆立命館大学スポーツ健康科学部と連携して、体育科の体力測定、コーチ学講義、栄養学講義等を受けている。大学との連携によって、大学の研究内容や学部の情報を知ることができ、体育科生徒の体育に対する探究意識が高まっている。生徒自身の変化・伸び等をフィードバックでき、事後の学習や部活動に生かしている。



地域・企業・大学等と連携した学びについて

期待される教育的効果

【生徒の視点】

- 学校内だけでは難しい専門的な学びによる視野や知見の広がり
- 進路を考えるきっかけと学習意欲の向上
- 地域社会への貢献を見据えたキャリア選択
- 地域社会への当事者意識や起業家マインドの醸成 など

【地域の視点】

- 高校教育への興味関心の醸成
- 地域の未来を見据えた人づくりへの意識醸成 など

現状と課題

- これまでの取組を継続・充実
- 新たな取組の開発



- 新しい視点による学びの創出は難しい。
- 教職員の多忙化もあり、取組の精査・集約も必要などところがある。

- ・高校と関係機関とをつなぐコーディネート機能を担う人材
- ・多彩なキャリアを持つ教職員
- ・コンソーシアム（高等学校と関係機関等との連携協力体制）の整備

- 連携先や教育活動等の一層の充実
- それぞれのキャリアや強みを生かした特色ある教育活動の促進
- 教職員の負担軽減 など

高校の地域連携と コーディネーターの役割

中山 郁英

伊香高校／合同会社kei-fu（ケイフー）

2024年1月15日

伊香高校コーディネーターの中山です！



- ★ 滋賀県長浜市生まれ。
- ★ 大学卒業後、トヨタ自動車、コンサルティング会社、東京大学 i.school スタッフ等を経て、2017年より活動拠点を長浜市に移す。合同会社kei-fu（ケイフー）プロジェクトマネージャーとして主に行政や歴史ある組織と協働。並行し「行政とデザイン」をテーマに研究。
- ★ 京都工芸繊維大学大学院デザイン学専攻博士後期課程修了、博士（学術）。
総務省地域力創造アドバイザー。社会教育士（講習：島根大学）。滋賀大学経済学部非常勤講師。

滋賀県最北の 高等学校

～全日制 湖北地域～

<R5年度学級数>

- 2～3学級
- ◎ 4～6学級
- 7～9学級

伊香
高校

普通

地域 多様 生ス芸

- ★地域の専門家と協働した、森・川・里・湖が
つながる県北部ならではの学び
- ★地域をフィールドにした多様な地域探究の学び
- ★専門スポーツの競技力向上や野外スポーツ等の
学び

虎姫
高校

普通

国際バカロレア

高大

- ★スーパーサイエンスハイスクールの先
進的な理数系教育による、理科や数学
の発展的な学び
- ★国際バカロレアの学びの充実を図り、
グローバル人材を育成する教育活動
- ★生徒が自ら多様なテーマで課題研究に取り組み
イノベーションの担い手を創出する教育活動

長浜北星
高校

総合

文理系列、メカトロニクス系列、
情報電子テクノロジー系列、総合ビジネス系列、福祉系列

産業 生ス芸

- ★学校間連携や企業連携等による商品開発・
販売等の実践的な学び
- ★地元企業等からの高度な技術指導
- ★介護福祉士国家資格を取得できる専門的知
識と技術の習得を目指した学び

長浜北
高校

普通

地域 高大

- ★高大連携事業や地域探究等の発展的な学び
- ★活発な学校行事や部活動等による生徒の個
性・能力の伸長を図る教育活動

長浜農業
高校

農業

農業科、食品科、園芸科

地域 産業

- ★異業種との連携・協働による特産物や新商品の
開発を目指した学び
- ★地産地消や6次産業化を目指した学び

伊吹
高校

普通

体育コース

地域 多様 生ス芸

- ★多様な学習ニーズ等に対応したクラス編成
- ★専門スポーツの競技力向上や健康維持等の専門
知識の修得を目指したスポーツ教育
- ★探究学習を通じた地域連携活動

米原
高校

普通

英語コース

理数

高大

- ★大学等の専門機関と連携・協働した専門的・探
究的な学び
- ★英語コースにおける国際社会で活躍できる英語
力を育成する学び

伊香高校の魅力化

伊 香 高 等 学 校
“Go Beyond”

プ ロ ジ ェ ク ト

超えてゆく未来

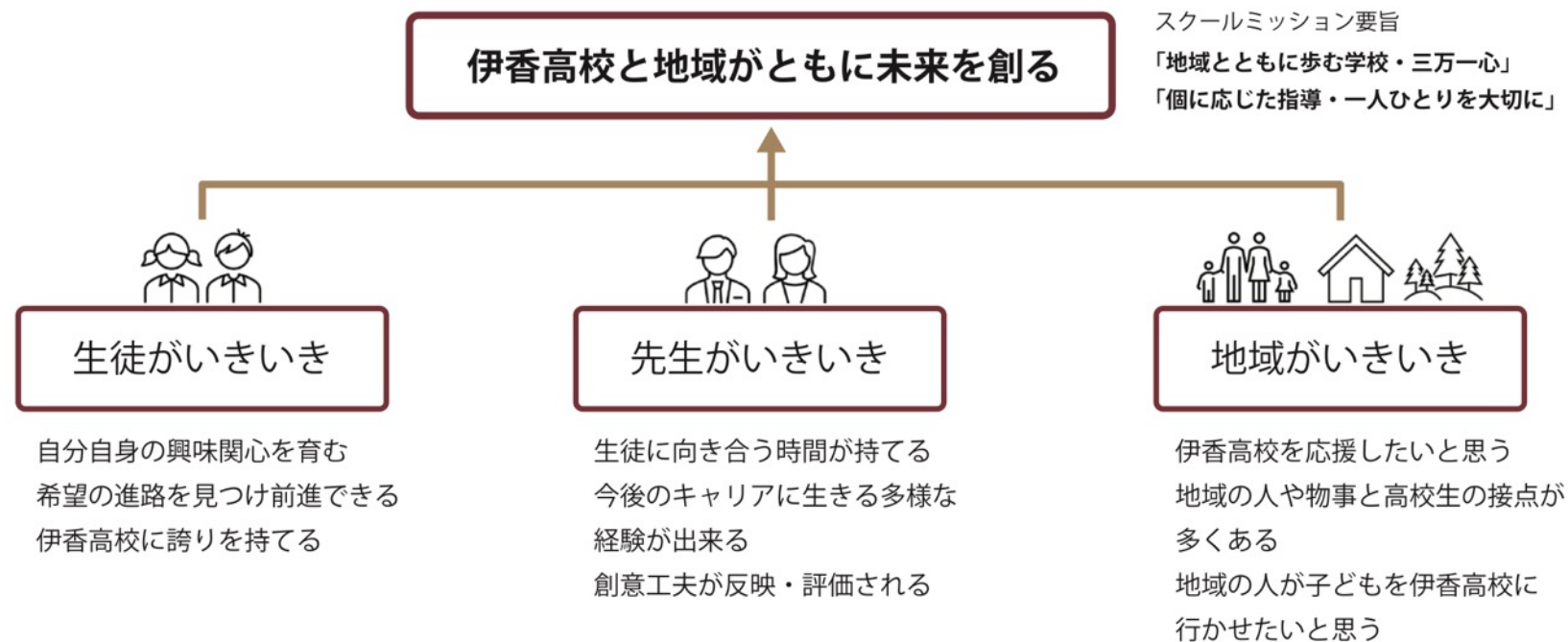


■伊香高 “Go Beyond” プロジェクトについて

「Go Beyond～超えてゆけ～」を合言葉に、高校をより魅力的にしていく活動を令和4年度にスタートしました。

地域の想いでつくられた高校の歴史に立ち返り「伊香高校と地域がともに未来を創る」ことを活動の目標と設定しています。

そのためには、学校に関わる「生徒」「先生」そして「地域」がいきいきとしていくことが欠かせません。そのような状態をつくっていくために、様々な活動を実施していきます。



普通科改革支援事業とは

- ★ 令和4年度より設置可能となった「**新しい普通科**」を設置する予定の高等学校等に対し、**関係機関等との連携協力体制の整備**や、**コーディネーターの配置**などの支援を行う、文部科学省の事業。
- ★ **伊香高校は令和5年度より本事業に採択**され、取組みをスタート。**全国で29校が採択**。滋賀県内では他に守山北高校が採択されている。

伊香高校

地域連携

多様な学び

生活・スポーツ・芸術系

<スクール・ミッション>

- ①未来を拓く心豊かでたくましい人づくりのため、生徒の自立する力・伝える力・協働する力・創造する力等の生きる力を育成する学校
- ②地域の熱意と協力により開校した伝統のもと、地域との連携・協働した学びにより、将来の地域を担う人材を育成する学校
- ③基礎学力の充実や発展的な学習等により、生徒の進路希望を実現するための確かな学力を育成する学校

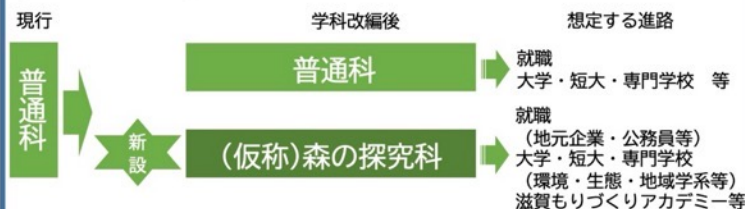
育成を目指す資質・能力（グラデュエーション・ポリシー）

- ◆教育基本法に則り、将来の地域社会に貢献しうる、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成します。
- ◆地域の未来を創造し、持続可能な地域社会を支える環境未来人材を育成します。
 - ・夢を描き、進路目標を実現する自己実現力
 - ・自己の思いを伝えながら、他者の多様性を理解するコミュニケーション力
 - ・人や地域と協働し、新たな創造に向かう課題解決力
 - ・未知の困難に柔軟に対応し、あきらめないレジリエンス力

特色ある教育活動（カリキュラム・ポリシー）

- ◆自身の興味関心や希望進路にあった類型を選び、進路実現を目指します。
- ◆小規模を強みとして、個に応じた学習を習熟度・少人数で展開します。
- ◆滋賀北部ならではの地域資源を活用し、地域と協働した学びを実施します。
- ◆外部講師を招き、地域をフィールドとした多彩な授業を設定しています。
- ◆自身で設定した課題を探究し、地域での実践を通して、学びを深めます。

クラス編成



学校を取り巻く環境

【伊香高校】

- ◆地域に根ざした伝統校
- ◆生徒の興味・関心等に応じた4つの類型の学び
- ◆地域とのつながりを重視した教育活動
- ◆令和4年度魅力化推進事業の指定で地域コーディネーターを先行して配置
- ◆地域の生徒数減少に起因する小規模化
- ◆伊吹高校とのICT活用による遠隔合同授業の研究
- ◆生徒の9割以上が長浜市内の中学校出身

【長浜市】

- ◆人口減少地域であり、地域に想いを持った人材の育成が必要
- ◆林業に従事する地域おこし協力隊
- ◆脱炭素社会実現への動き 「ゼロカーボンシティ宣言」

【滋賀県】

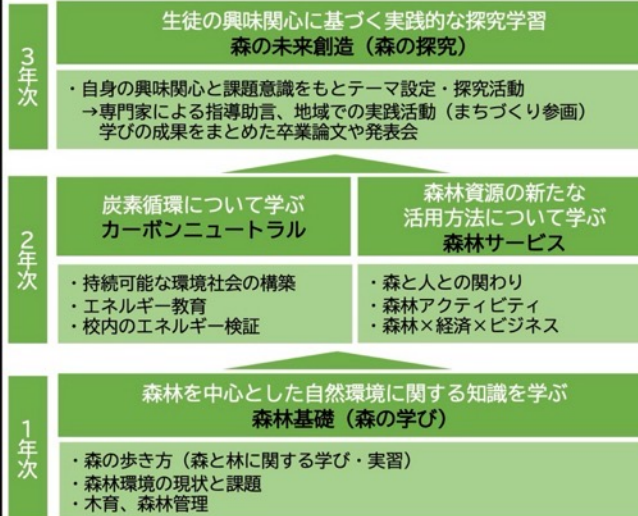
- ◆MLGs達成に向けた取組の推進
- ◆挑戦する若者の集う県北部を目指す 「北の近江振興プロジェクト」

「(仮称) 森の探究科」の教育課程

<コンセプト>

滋賀県北部地域の豊かな自然環境、森林資源などを活用し「森で学ぶ」をコンセプトに、生徒の「生きる力」を地域とともに育む<ゼロ・カーボン・ハイスクール>を目指す。

<学びのイメージ>



◆教育活動の概要

持続可能な社会と琵琶湖に根ざした暮らしの創造、人と自然が共存する循環型社会構築に資する人材育成を図る。また、地域の森林資源などを活かしたまちづくりに関わり、地域活性化との相乗効果を目指す。

- 「森・川・里・湖」が水系でつながる滋賀北部ならではの学び
- 地域内外の専門家と協働した循環型社会に関する実践的な学び
- 地元地域や長浜市など地域と連携した学び

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	
1年	国語			数学				英語		地理歴史	理科	保健体育	芸術	情報	家庭	森林基礎														
2年	国語			数学				英語		地理歴史		公民	理科	保健体育	芸術	森林サービス														
3年	国語			英語				地理歴史	公民	理科	保健体育	選択科目																		

※参照：「(仮称) 森の探究科」ならではの特色ある学び

魅力化プラン

- ★地域の専門家と協働し、森・川・里・湖がつながる県北部ならではの学び
- ★地域をフィールドに、「地域の人々や文化的資源」と「生徒の興味関心や進路希望」を掛け合わせた多様な地域探究の学び
- ★専門スポーツ（野球・柔道等）の競技力向上や野外スポーツ等の学び

スケジュール

- 令和5年度 教育委員会規則を改正
- 令和6年度 学校説明会・体験入学等における新しい取組の周知 → 新学科生徒募集
- 令和7年度～ 新学科設置

魅力化
特色化

「普通教育を主とする学科」の弾力化－新学科の要件

- (1) 各学科の特色等に応じた学校設定教科・科目を設け、2単位以上を全ての生徒に履修させること
- (2) 学際領域学科においては、大学等の連携協力体制を整備すること
- (3) 地域社会学科においては、地域の行政機関等との連携協力体制を整備すること
- (4) 学際領域学科及び地域社会学科においては、関係機関等との連携を行う職員の配置その他の措置を講じるよう努めること

新たな学科において考えられる学校設定科目の例

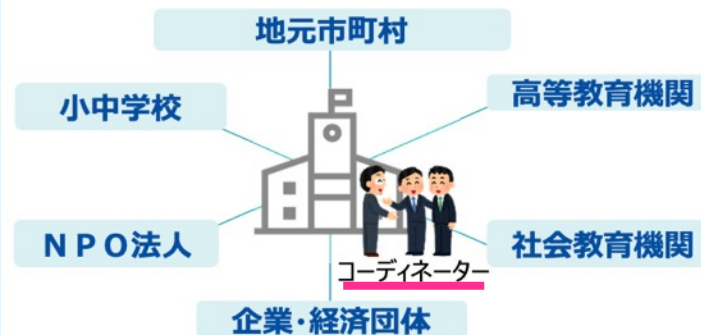
社会科学 研究	社会科学的な考え方をを用いて現在の経済活動を読み解き、現代社会の特質や課題について認識を深め、社会課題の解決策を提案
クリティカル シンキング	文脈の中で抽象語を理解し、複数の立場から論じられている文章の読解等を通して、多面的・総合的に考える能力や自分の考えを適切に表現する能力を育成
グローバル探 究	データに基づく論理的思考や調査手法等の研究手法を学ぶとともに、グローバルな社会課題についてSDGsの達成に向けた研究活動を実施
地域学	フィールドワーク等を通して、地域の現状・歴史を知り、地域の課題やニーズを把握。収集した情報を整理・活用し、課題を明確化し、行政・地域・福祉施設等との協議を通して、具体的な解決策を提案。こうした学習の課程においてコミュニケーション能力や交渉力を育成

連携協力体制

<学際領域学科の例>

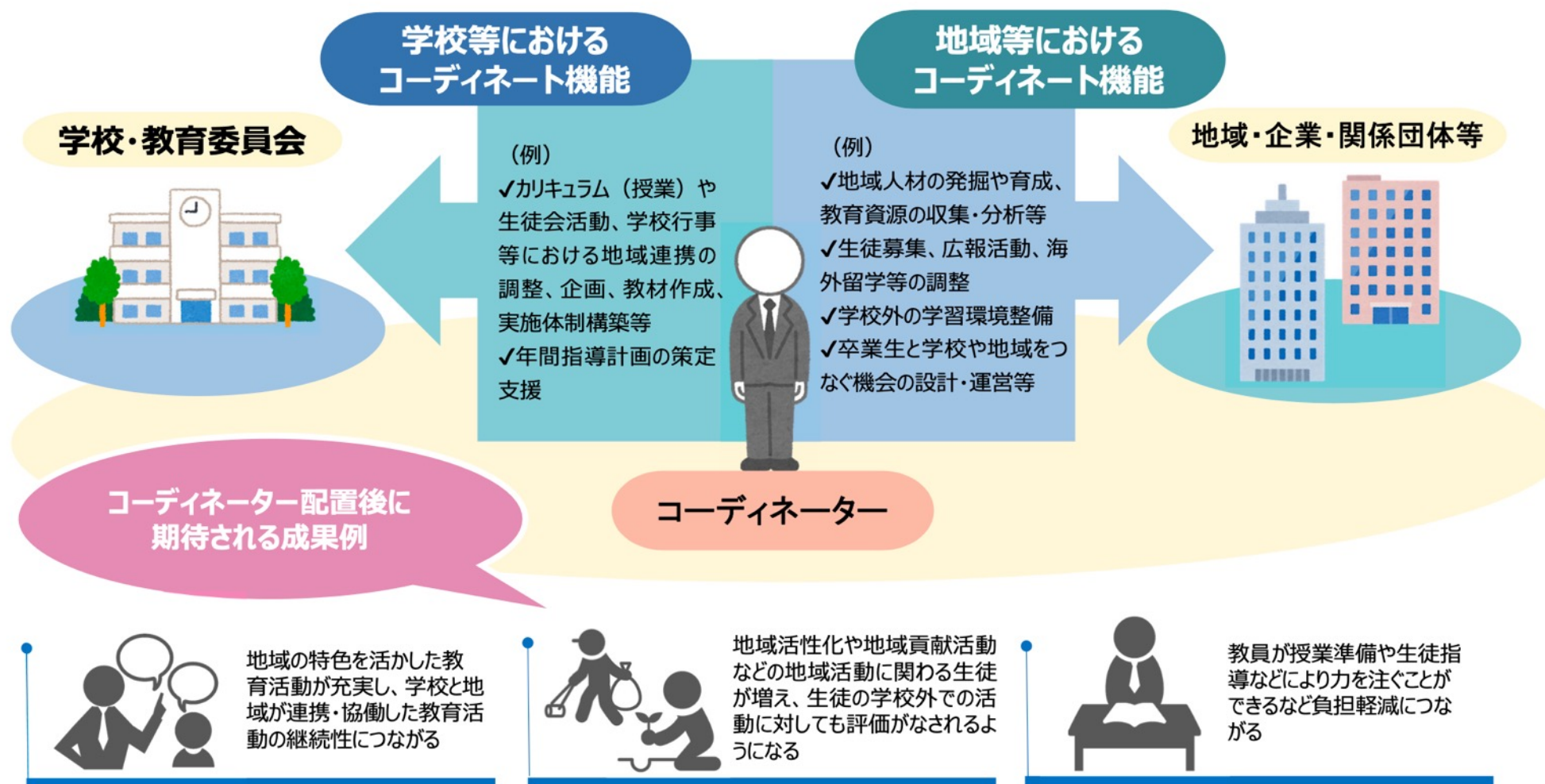


<地域社会学科の例>



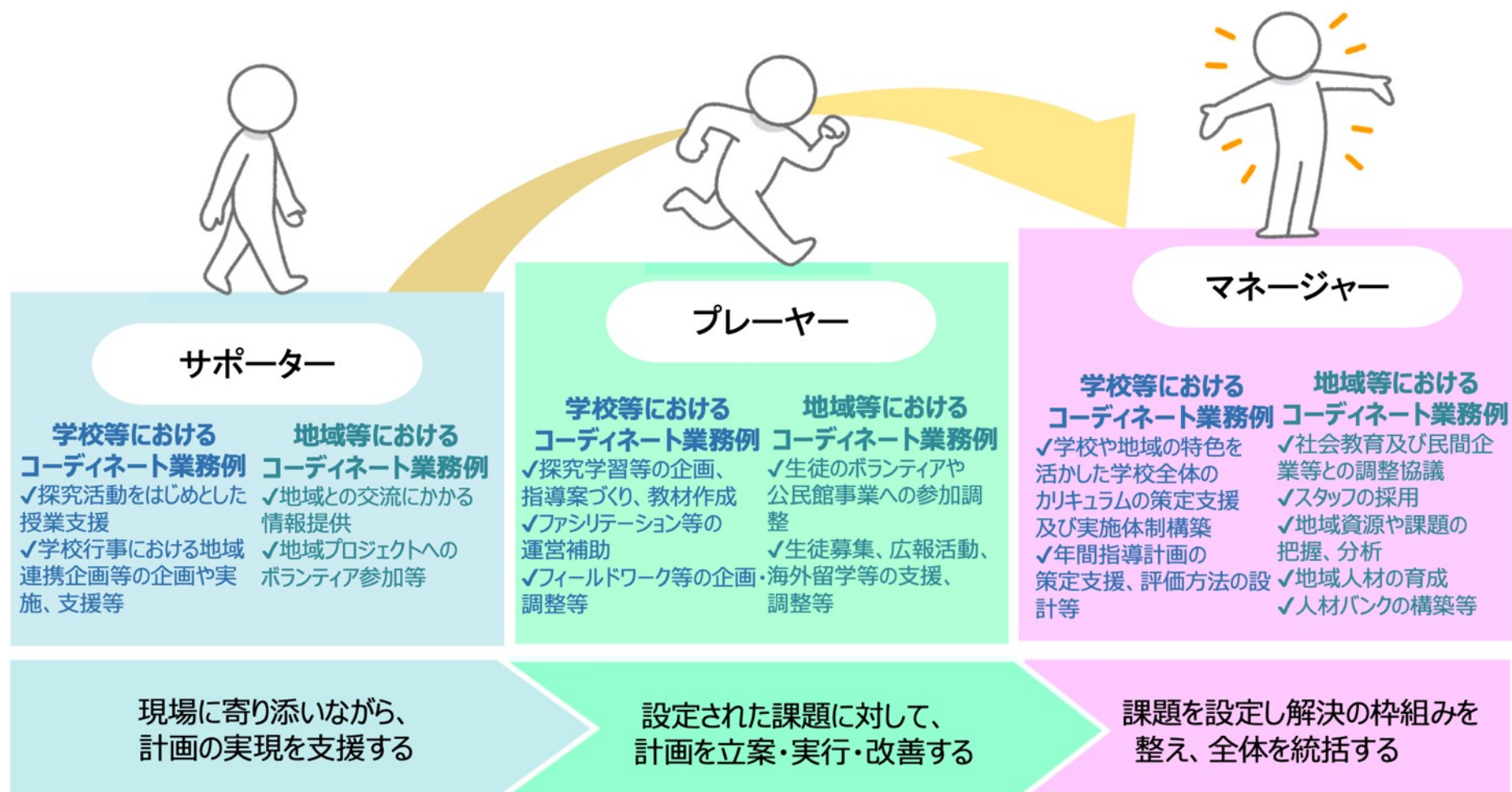
コーディネーター業務の概要（１）

コーディネーターを配置することによって、「学校と地域の関係性が深まる」「学校と地域が連携・協働した教育活動の継続性につながる」「各地域の特色を活かした教育活動が見られるようになる」といった成果や効果が見られる。



コーディネーター業務の概要（２）

- ✓ 必要なコーディネート機能は、役割のレベルによって大きく３つに分類され、特にプレーヤークラス及びマネージャークラスのコーディネーターには、カリキュラム開発に係る専門性の高い知識と、地域人材の発掘、育成、教育資源の収集・整理等のために地域内外との継続的な連携が求められる。
- ✓ コーディネーターが非常勤やボランティア等といった配置では、必要なコーディネート機能を継続的に担うことができず、教職員が多くの役割を担う必要がある。



伊香高校コーディネーターとしての仕事

★ マネージャー的な仕事

- ・ 新学科カリキュラムと運営体制（主に地域側）の検討・推進
- ・ 地域連携コンソーシアム立ち上げに向けた、運営体制検討や市・地域関係団体との協議
- ・ 教員向け研修の企画実施
- ・ . . . など

★ プレイヤー的な仕事

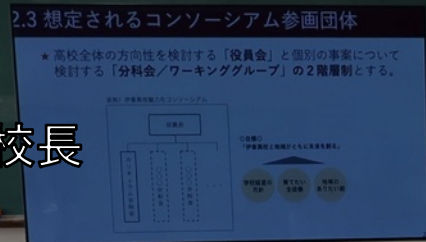
- ・ 総合的な探究の時間などにおける地域と連携した授業の支援・調整
- ・ 地域の経営者などをお招きしたキャリア教育の支援・調整
- ・ 「伊香高通信」など広報資料の作成
- ・ . . . など

コーディネーター

県教委

県大教員

校長



地域づくり協議会

高校同窓会

カリキュラム
アドバイザー

市役所

市役所

教頭

高校教員

3年生総合的な探究の時間「もっと森と親しくするには？」



しがアントレプレナーシップハイスクール (SESH) 事業

■地域ならではの土産企画開発



■地域の企業家の方々との対話会



大事にしていること

- ★ 生徒・学校・地域のそれぞれが、良かったと思えるような活動や関係性を考える。（魅力化の三方良し）
- ★ 無茶はしない、でも挑戦はする。
- ★ なるべく自分一人でやらない。

学校で学んだことが、子供たちの「生きる力」となって、
明日に、そしてその先の人生につながってほしい。

これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、
自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、
それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。

そして、明るい未来を、共に創っていききたい。

2020年度から始まる新しい「^{がくしゅう し どう よう りょう}学習指導要領」には、
そうした願いが込められています。



「学習指導要領」とは、全国どここの学校でも一定の教育水準が保てるよう、
文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準です。
およそ10年に一度、改訂しています。
子供たちの教科書や時間割は、これを基に作られています。

これまで大切にされてきた、
子供たちに「生きる力」を育む、という目標は、
これからも変わることはありません。
一方で、社会の変化を見据え、新たな学びへと進化を目指します。

生きる力 学びの、その先へ

新しい「学習指導要領」の内容を、多くの方々と共有しながら、
子供たちの学びを社会全体で応援していきたいと考えています。

出典：文部科学省「新学習指導要領リーフレット」

目指すのは「社会に開かれた教育課程」の実現

保護者の皆さまや地域の皆さまのお力添えをいただきながら、
よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を達成していきます。

保護者の皆さまへ

子供たちの「生きる力」を育むには、
学校での学びを日常生活で活用したり、
ご家庭での経験を学校生活に生かしたりすることが、
とても大切です。

お子さんが学校で学んだことについて、
ご家庭で、ぜひ話してみてください。

保護者の皆さまの働きかけが、
子供たちの「生きる力」を育む大きな原動力になります。



DATA

保護者の働きかけがある子供の学力は高いという傾向があります。
例えば……

- ☐ 学校や友達のこと、地域や社会の出来事など家庭での会話が深い。
- ☐ テレビ・ビデオ・DVDを見る時間などのルールを決めている。
- ☐ テレビゲーム（携帯電話やスマートフォンを使ったゲーム等を含む）をする時間を限定している。
- ☐ 子供に本や新聞を読むようにすすめている。
- ☐ 子供に最後までやり抜くことの大切さを伝えている。
- ☐ 自分の考えをしっかりと伝えられるようになることを重視している。
- ☐ 地域や社会に貢献するなど人の役に立つ人間になることを重視している。

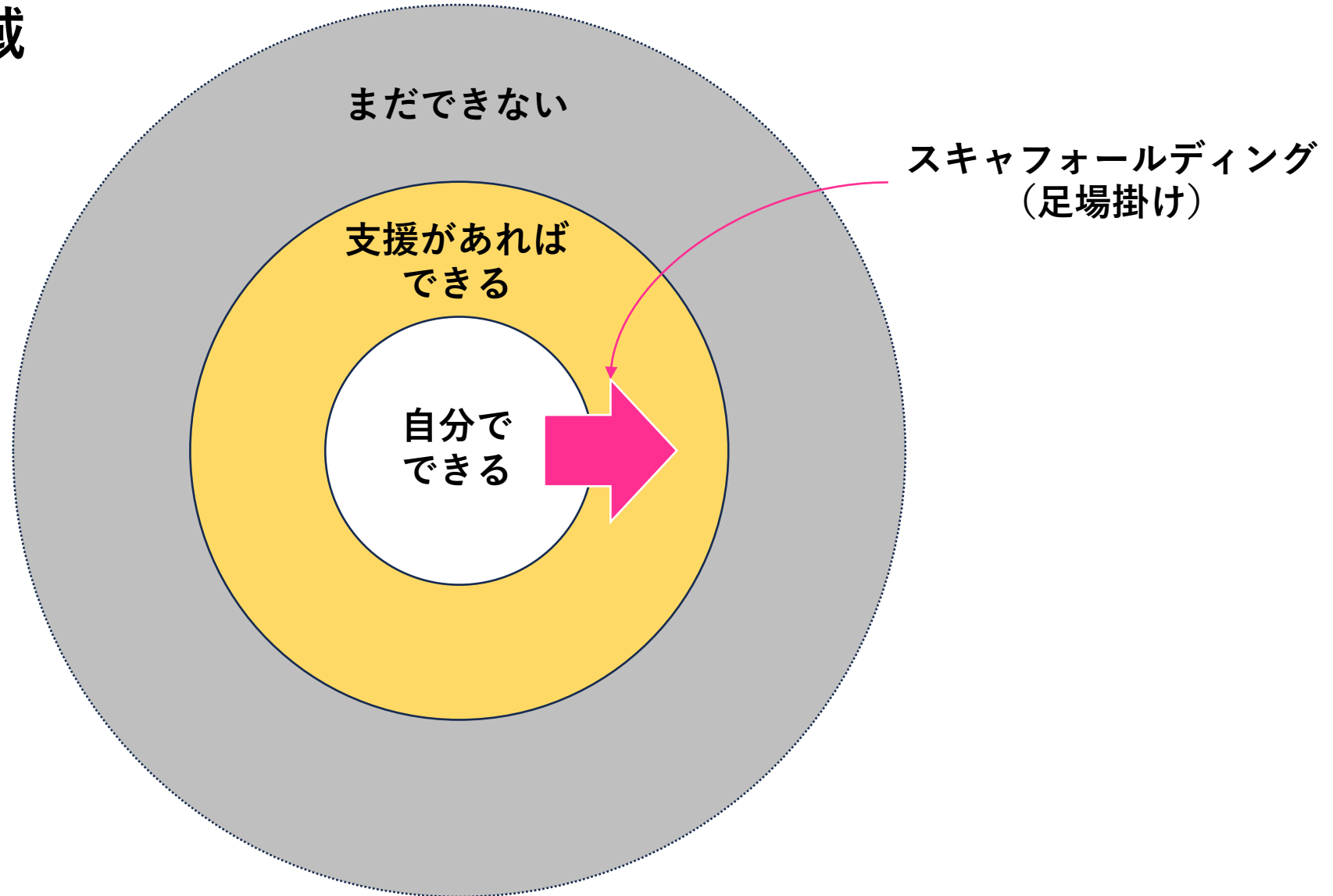
（平成29年度全国学力・学習状況調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究）

目指すのは「社会に開かれた教育課程」の実現

保護者の皆さまや地域の皆さまのお力添えをいただきながら、
よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を達成していきます。

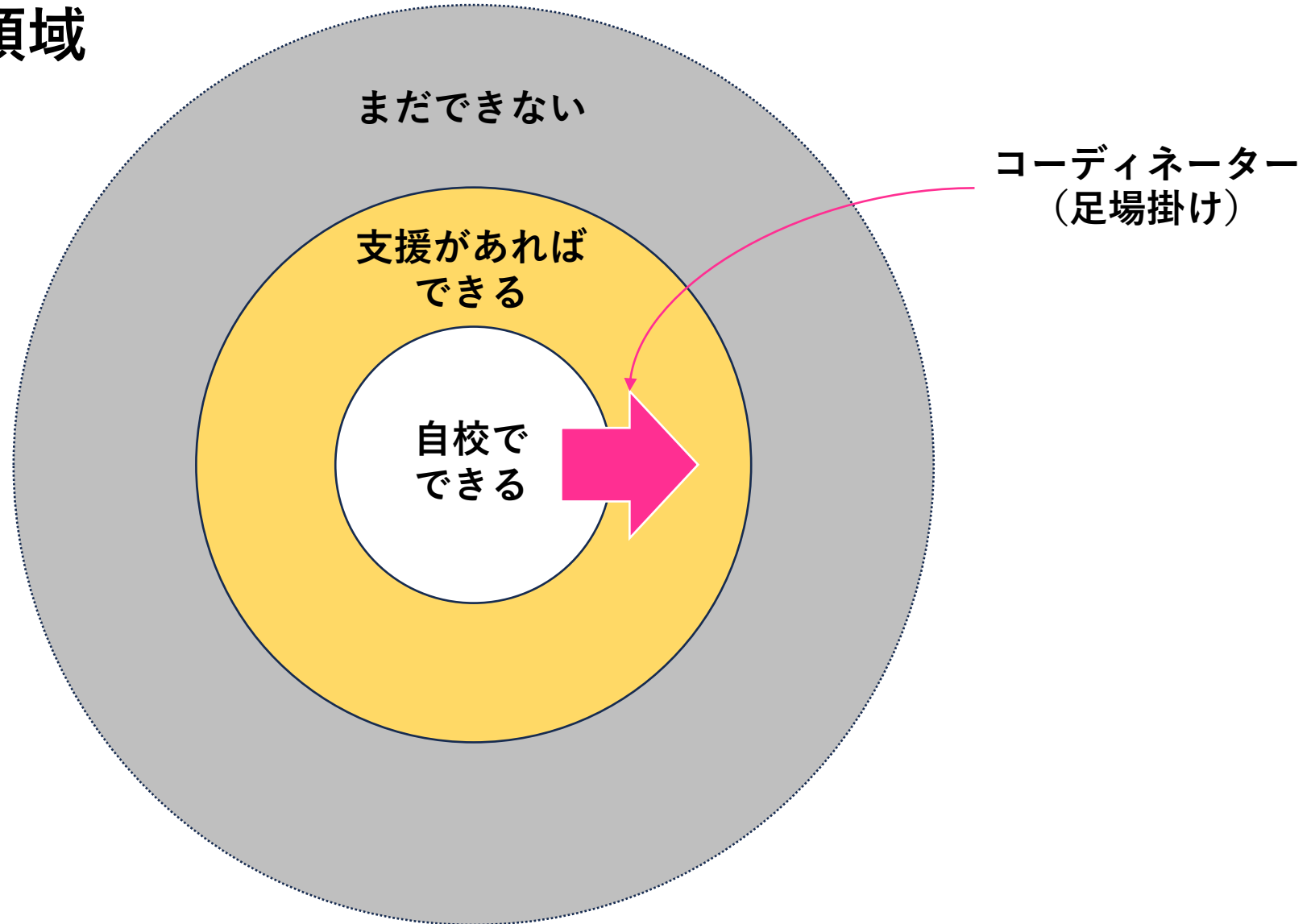
コーディネーターの仕事

発達の最近接領域



コーディネーターの仕事

魅力化の最近接領域





令和6年（2024年）1月15日
第5回滋賀県総合教育会議
資料 1 - 3

高大連携〈先取り履修〉の取組状況 WWL事業に係る滋賀県立大学での特別聴講

R6.1.15
滋賀県総合教育会議
報告 彦根東高等学校



Contents

先取り履修

- 1 はじまり
- 2 実施要項
- 3 受講生徒
- 4 ま と め



国WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）事業

管理機関: 滋賀県教育委員会 拠点校: 彦根東高

1 はじまり

◇ WWL事業：将来世界で活躍できるイノベティブなグローバル人材を育成
高校と国内外の大学・企業・国際機関等が協働し、テーマを通じた高校生の
国際会議の開催等の高度な学びを提供する仕組みの形成

常に、新しい
学びに**挑戦**

① 先取り履修

② 教科融合授業

③ GSコース・GS部設置

④ 海外研修・交流 等々



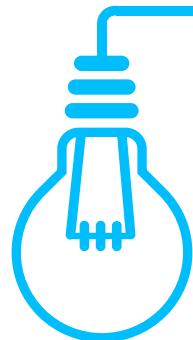
◎ 生徒同士思いやり
楽しく切磋琢磨



◎ 彦根東サイエンス国際フォーラム
世界の高校生と国際会議

滋賀県立大学での先取り履修

2 実施要項



① 授業期間
前期 4～9月
後期 9～3月

② 1 講座
5～10名
2、3年生

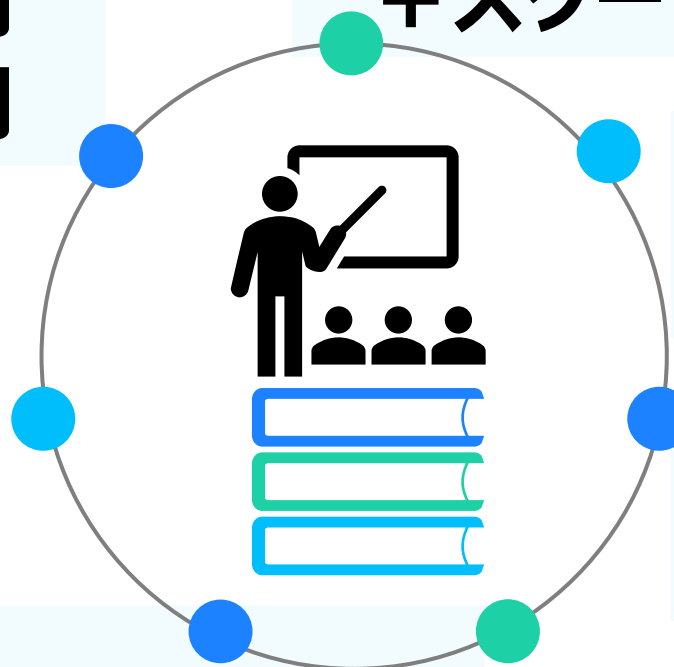
③ 対象生徒
WWL拠点校 連携校 6校
彦根東 膳所・虎姫・守山・水口東・高島

④ オンデマンド配信（PC視聴）
＋スクーリング（大学での授業）

⑤ 2単位・90時間
相当の学修が必要

⑥ 評価：試験・レポート
→ 合格or不合格

⑦ 合格→受講大学での
単位として認定



滋賀県立大学での開講講座



年度 時期	開講科目（学部）	受講→合格
R5 後期	コンピュータとインターネット（工）	6人受講中 水口東・彦根東
R4 後期	電子社会と人間（工）	5人→5人 高島・彦根東
R4 前期	自然科学入門（工）	5人→0人 彦根東
R3 後期	地域コミュニケーション論 （人間文化）	6人→6人 水口東・高島・守山・彦根東
R3 前期	SDGsと滋賀のグローバル・ コミュニケーション（人間文化）	12人→11人 虎姫・彦根東

（開講されなかった講座は除いています）



単位認定者のうち、現彦根東高
3年生10人への聞き取り

3 受講生徒

☑ 受講者の志望学部等

電子社会と人間
2人（2年次受講）

- ・工学部情報
- ・工学部応用理工

SDGsと滋賀のグロー
カル・コミュニケーション

8人（1年次受講）

- ・工学部化学生命工
- ・工学部デザイン
- ・薬学部
- ・農学部応用生物科学
- ・農学部栄養科学
- ・情報学部
- ・社会情報学部
- ・総合文系選抜



☑ 受講の感想 1 ☺

単位認定者10人

◆R4後期：電子社会と人間

- ・電子社会の問題点を考えることができた。映像ではあるが大学の講義の雰囲気がわかった。
- ・大学の研究室や大型機械を見せていただき楽しく学べた。

◆R3前期：SDGsと滋賀のグローバル・コミュニケーション

- ・コロナ禍で対面の講義はなかったが、Society5.0など、これからの社会を見据えた学びができた。
- ・SDGsについてかなりの知識を得ることができた。地域で身近に様々な取組が行われていることもわかった。
- ・大学の先生の講義だけでなく、外部の方の環境活動の話を聞いて、環境問題について幅広い考え方ができるようになった。
- ・大学の講義を入学前に実際に経験できたことはよかった。
- ・教授とのメールのやりとりやレポート提出など、高校とは異なる形態の授業で新鮮さがあった。

☑ 受講の感想 2

- ◇オンデマンド型の授業（動画視聴）に慣れるのに時間がかかった。（多数）
- ◇コロナ禍で仕方がないと思うが、長時間の話を一方向的に聞くオンデマンド型は疲労が大きい。
- ▲毎回のレポート課題を書くため、部活動などの前後の予定を鑑みて余裕をもって取り組む必要があった。
- ▲夏休みには高校の課題とレポートとの両立に苦労した。
- ▲動画視聴や課題に取り組むことが大変な時期もあった。

10人の所属部活動

<運動部>	<文化部>
弓道 3	新聞 2
ソフトテニス 2	囲碁 2
	SS・茶道 1

学校行事など

<前期>	<後期>
定期考査	定期考査
春季大会	秋季大会
学園祭	



現在受講中の6人（2年生）に聞き取り

3 受講生徒

滋賀県立大学 奥村教授

『コンピュータとインターネット』

- ◇大学の講義をWeb視聴
+ レポート提出課題 15回
- ◇大学でのスクーリング 3回



12月2日（土） 2回目の講義

講義の感想

- ◎ 高校の情報の授業で少し学んだインターネットの歴史やリスクを深く学び知る機会になった。
- ◎ AIを使った画像生成、Googleピクセルの消しゴムマジックなどの技術とその仕組みが面白い。
- ◎ 消しゴムマジックの仕組みは難しいが、一部だけでも理解したい。

課題の取組

- ◇ 週末に講義の動画を見ている。部活動のために時間が足りず、レポート提出が遅れることもあった。それ以外は順調にできている。
- ◇ 日曜日の午後に課題に取り組んでいる。高校のテスト期間は時間を確保できなかった。

高大連携 <先取り履修> 高校生の時間のやりくり



高校授業 月～金



高校での授業・行事・部活動等の教育活動に加えて、大学での特別聴講 <先取り履修>を行うために、各生徒は週末などの時間を有効活用している。



部活動おもいきり



楽しい行事 熱中



プライベート 休息



4 まとめ



滋賀県立大学と連携した特別聴講 <先取り履修>

高校生の大学教育の先取り履修は、ICTを活用したオンデマンド配信とスクーリングによる参集の併用スケジュールで実施し、令和3～5年度はWWL拠点校と連携校の生徒が取り組み単位認定を受けている。

受講生徒は、必ずしも志望学部の内容でなくても、自分が興味のある分野を深く学びたいとの動機で主体的に参加している。受講に際して、高校の授業や部活動などの教育活動との時間のやりくりをしている。

現状の先取り履修は、滋賀県立大学のみで少数の受講者となっており、高校としては、令和3～5年度の受講状況等を踏まえて、他大学での受講案内、効果的なICT活用等々、今後も工夫する必要がある。

滋賀県立大学の高大連携事業

本学の高大連携事業には以下の【ア】～【エ】の種類があり、【ウ】【エ】については、保護者対象にも実施しています。【ア】の大学連続講座は県教委・高校教育課主催ですが、それ以外の事業はすべて、個別の高等学校・中学校等から申込みいただいて実施しています。

	学内で実施	学外で実施
教員が 対応	【ア】 ・大学連続講座（県教委主催） ・模擬講義	【イ】 ・出前講座（出張講義） ・学部学科の説明
職員が 対応	【ウ】 ・大学の概要説明 ・キャンパス見学 ・カフェテリア利用（学食体験）	【エ】 ・進学説明会（進学ガイダンス） ・高校訪問（県立45校・私立13校）

【ア】

県教委主催の「大学連続講座」では、県立高等学校の生徒に加え、県内大学では唯一、私立高等学校の生徒も受け入れています。毎年、定員を大幅に上回る希望者があり、昨年度に引き続き今年度も、可能な範囲で受入れ人数を増やす対応をとりました。

【ア・イ・ウ】

個別の高等学校・中学校からの申込により、模擬講義・出前講座・学部学科説明・大学の概要説明・キャンパス見学・学食体験等を行っています。生徒対象には7月から9月が多く、保護者の方にはPTA研修旅行という形で10月に多くお越しいただいています。

11月～4月は推薦選抜・大学入学共通テスト・前期試験・後期試験等、繁忙期のため、本学会場での実施は受け入れておりません。

【エ】

各高等学校等からの依頼や業者を介しての依頼に応じて、積極的に各学校やその他会場へ出向き、キャンパスの環境・学部学科の概要・学校推薦型選抜や一般選抜の入試情報・在学生の出身地域や男女比・人間探求学などの全学共通科目・短期長期の留学制度・実験実習フィールドワーク・地域での学びなどについて説明しています。

※1 学校推薦型選抜A（定員600名中126名の枠）

11月に実施している学校推薦型選抜（A～D）のうち、AとBは「滋賀県枠」と呼ばれているもので、本人または保護者が滋賀県内に居住している者に限って受験できる推薦入試制度。

※2 滋賀県立大学と彦根東高等学校の連携に関する協定（平成21年3月17日）

理系の教育・研究の様々な分野において、人的交流や知的資源等の相互活用の連携協力を図り、相互の教育の更なる充実に資することを目的として、協定を締結。

滋賀県立 湖南農業高等学校

デュアルシステム
（派遣実習）について



派遣実習の目的

本校と産業界が連携して人材を育成する教育システムを構築し、共同で生徒の社会人としての資質・能力をいっそう伸長するとともに、産業界で活躍できる人材を育成する。



派遣実習のとりくみ

平成20年度（2008年度）スタート

今年度で16年目

委託先 132社

派遣生徒 153名



派遣実習のとりくみ

単位数 6単位（学校設定科目）

実施日 4～11月、毎週金曜日
16～20日間

（夏期休業期間を除く）

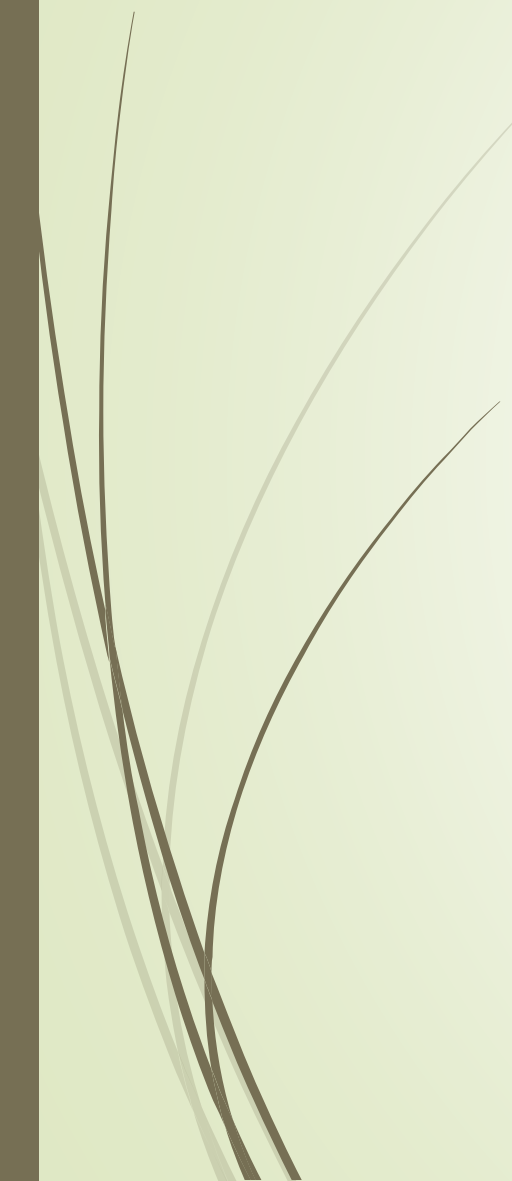
成果発表会 1月中旬に実施



派遣実習生

花緑科 3年

長谷川 雄飛





デュアルシステムについて

長谷川雄飛 & ワシダ農園
nature (ナチュレ)

ワシダ農園

花キューピット nature（ナチュレ）

代表 鷺田新介

一級フラワー装飾技能士 職業訓練指導員

滋賀県家庭教育協力企業

滋賀県道德教育推進協議会委員

野洲市社会教育委員 野洲市生涯学習カレッジ委員

湖南農業高等学校 学校運営協議会委員

野洲小学校 学校運営協議会委員





デュアルシステムの目的

- (1) この実習を通して、
今までの自分を振り返る
- (2) 体験したことや
考えたことを共有する
- (3) 卒業後の自分像を見据える
- (4) 学科の専門性を深める



デュアルシステムの心構え

- (1)意欲的に実習に取り組む
分からないことは質問をする
メモをとる
- (2)社会人の一員としての自分づくり

ワシダ農園



nature (ナチュレ)



店内 キーパー



















京都府立植物園 フラワーデザインコンテスト出品



高校生の部 東京リボン株式会社賞



ご清聴
ありがとうございました。

